

令和7年度学校評価表

品川区立浜川中学校

校長 小野 智

浜川中学校校区教育協働委員会

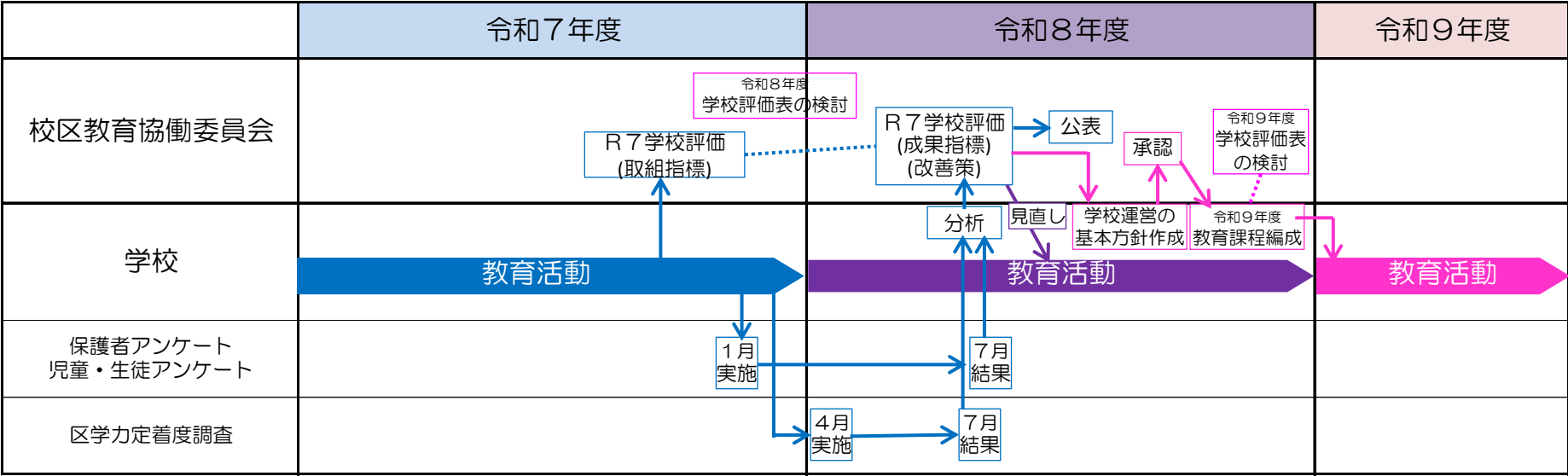
委員長 杉山 直道

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和7年度の学校評価が令和8年度および令和9年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和7年度 学校評価 品川区立浜川中学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		◎新学習指導要領を見据え、授業改善に取り組み、学力向上を図る。 ①各教科、領域において言語活動を充実させ、読解力の育成に重点を置いて指導する。 ①基礎的な知識、技能習得のため、個に応じた指導の充実と放課後、長期休業中の学力補充を活発化する。 ①ICT機器を授業等で効果的に活用し、主体的に取り組もうとする学習意欲の向上を図る。 ②読書活動や作文、発表活動を活発化させ、学力の基礎となる語彙力の向上を図る。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	区学力定着度調査等経年変化を考察し、前年度の結果より向上させる。区学力定着度調査については各教科の区平均正答率を上回る。	市民科進路指導(令和8年度実施分にて考察) 区学力定着度調査で区平均を上回った教科は、7年英語、8年社会、理科、9年理科	C	各学年区の平均を上回った教科が少なかった。下回った教科も昨年に比べ徐々に平均に近づいてきている。各教科更に授業改善を行い、習熟のレベルを上げていく。
	ICT機器(電子黒板、タブレット端末)の活用や活動型の学習展開などを工夫し、主体的、協働的に学び思考力・判断力・表現力を育成するための授業づくりに取り組む。	今年度は、各教科において活動型の授業を実施して、生徒の主体的な活動を促した。	B	＜今後の課題＞全教科で、ICTを活用した授業を展開できたが、生徒の主体的活動には至っていない。 ＜改善策＞校内研修などの時間を使い、授業力の向上を目指す。
	英数で実施する少人数習熟度別授業の他、放課後や長期休業中に行う学力補充活動など、個に応じた指導を充実させる。	今年度は、英語科と数学科で、少人数習熟度別授業を実施した。また、CSと連携して、地域人材を活用しながら放課後補習教室を実施した。	A	＜今後の課題＞補習教室への参加者を増やしていく。 ＜改善策＞参加申し込みをタブレットから行うなど、申し込みやすいように環境整備を行う。
②	読書活動については、学校図書館活用による個人1000冊、総年間貸出し冊数3000冊以上を目標に活性化させる。各種検定試験については、卒業期までに3級以上の取得を目標に達成率を向上させる。(全体の25%程度)	今年度の学校全体の貸出冊数は1654冊で、生徒の貸出冊数は1502冊(昨年度1303冊)であった。 検定の取得率は、7年11%、8年47%、9年55%、全体では、38%で目標を達成した。	B	＜今後の課題＞今年度は、9年生の貸出冊数が極端に少なかった。年々タブレット等の使用により、本を読む習慣がなくなっている。 検定試験の周知もしっかり行い、受験することに抵抗がなくなっている。今後更に受験率を向上させていく
	全校でビブリオバトルを実施するなどの啓発活動を活発化する。また、各種検定試験もCS活動の協力を得ながら、事前指導を行い、計画的に実施する。	今年度は、7・8年生で読書感想文、7年生でPOPコンテストを行った。 検定試験は、各教科で事前に試験日程等を周知し、CSの協力で事前講習を行い受験率が向上した。	A	＜改善策＞読書活動推進に向けた取り組みを考える。特に受験もあるが9年生には、本を読むことが受験にも役立つので、大切さを周知していく。 年度当初に年間計画等を作成して生徒に周知することで、計画的に受験できるようにする。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		◎多様性を認め合い、多様な人々と交流し、豊かな人間関係を築くことができる生徒を育成する。 ①社会のルールやマナーを守ることができる規律性や規範意識を育成する。 ②あらゆる場面で相手の話をしっかり聞く態度、自分の考えをはっきり伝える態度の育成に力を入れる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	アンケートで「あいさつをする」「正しい言葉遣いをする」の項目について8割以上の生徒が肯定的に評価している。	アンケート結果は、肯定率あいさつ7年89%、8年96%、9年94%全体で93%、正しい言葉7年76%、8年77%、9年90%全体81%で、目標を達成できた。	A	<今後の課題>「正しい言葉遣い」について、7・8年に課題が見られた。「あいさつ」は、一定以上の達成状況ではあるが、さらなる向上を目指す。 <改善策>あいさつも言葉遣いも教員が手本となるよう意識しながら指導する。また、言葉遣いについては、インターネットやSNSの影響も考えられるため、多角的な視点をもって指導をしていく。
	あいさつ運動を活性化させるとともに場に応じた適切な言葉づかいを行う。教師自ら、手本となるように意識しながら指導する。	昨年度に引き続き、生活委員・教員による週番活動や生徒会本部による登下校のあいさつ運動を実施した。生徒会本部や生活委員会では、あいさつの活性化のためのキャンペーンも行った。また、学校生活のあらゆる場面において言葉遣いの指導を行った。	A	
②	「規則を守る」「時間や約束を守る」「係・当番・委員会等の役割を果たす」の項目について8割以上の児童・生徒が肯定的に評価している。	アンケート結果は、規則7年94%、8年92%、9年95%全体94%時間約束7年90%、8年96%、9年88%全体92%、係当番7年96%、8年92%9年92%全体93%となり目標を達成した。	A	<今後の課題>生徒主体の活動によって、規範意識のさらなる向上を図る。 <改善策>委員会活動等が主体的に行われるように工夫して、生徒会本部や生活委員会、学年協議会、行事における実行委員会を中心とした取組みを支援する。
	「中学校生活のきまり」を中心にして、生活委員会による生徒の主体的活動も取り入れながら規範意識を育成する。	昨年度に引き続き、生活委員会や学年協議会が、適切な服装や時間を守ること等と呼びかけた。行事における実行委員や各係を中心としたルールづくりも、規範意識の育成につながったと考えられる。また、今年度から生徒朝礼で、生徒会本部からもきまりに関する講話を行った。	A	
③	ボランティア等に積極的に参加しようとする意識を高める。(アンケートで8割以上の肯定的評価が得られている。)	アンケート結果は、7年42%、8年60%、9年66% 全体56%目標達成には至らなかった。	C	<今後の課題> ボランティア活動が、ボランティア推進委員会だけの活動になっている。 <改善策> ボランティア推進委員会の中で、参加を呼び掛ける活動を行う。
	ボランティア推進委員会を中心に様々なボランティア活動に取り組むことで思いやりやおもてなしの心を育む	今年度は、ボランティア推進委員会を中心に地域の花植えや使用済みペンの回収などの活動を行った。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○生涯にわたって運動に親しむ資質や能力、健康の保持増進のための実践力を育成し、体力向上を図る。 ①複数教員による指導体制でのチーム・ティーチングにより日々の体育授業を充実させる。 ②品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズなどを実践し、運動習慣づくりを啓発する。 ③健康の保持増進を図るため「基本的生活習慣の確率」「傷病への予防意識」「ストレスマネジメント能力」を向上させる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	全国体力運動能力調査の結果、全学年の各種目について、全国平均を上回る。	男子は9種目で全国平均を下回り、女子は8種目で全国平均を上回った。男女共通してハンドボール投げが全国平均を下回る結果となった。	C	<今後の課題> 投げる運動の習得をさせていく必要がある。各種目と繋げて補強運動等で実践していく。 <改善策> 実施できる種目は限られるが、体を動かす楽しさを実感できる授業を引き続き行う。
	テクニカルアドバイザーの有効活用、年間指導計画の工夫、体力調査への取り組み方の工夫により運動の楽しさを実感させる。	テクニカルアドバイザーを有効的に活用することができた。全学年で「体育の授業が楽しいと思わない」と回答した生徒は6人だった。ほとんどの生徒が体育の授業に対して肯定的な回答を示している。	A	
②	生徒アンケートで、「学校の授業以外で週に何日くらい運動していますか」という項目で8割以上の生徒が3～4日運動するよう習慣化する。	アンケート結果は、7年65%、8年65%、9年52%、全体61%で目標達成には至らなかった。	C	<今後の課題> 運動する機会は、学校と家庭である。運動の大切さを伝え、学校、家庭共に運動する習慣をつける必要がある。 <改善策> 品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズを授業で取り入れ、学校外でも簡単に実践できる運動を行う意識を高める。体づくり運動や体育理論において、自分に適した運動の選択を考えさせる。
	品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズの実施により運動への意識を高め、運動部員以外でも日常的に運動に取り組む習慣を身につけさせる。	品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズが運動習慣に結びついていることを実感するまでには至らなかった。しかし、昨年度の意識調査よりも「運動やスポーツを毎日している」と回答した生徒が2学年、3学年で6%以上増加した。	B	
③	健康の保持増進への取り組みにより、食事・睡眠・心身の健康等についての生徒アンケートで、8割以上の生徒が肯定的に回答している。	アンケート結果は、7年74%、73%、9年72%、全体73%と目標達成にあと少し及ばなかった。体力テスト意識調査では8割が毎日朝食を摂る、8割弱が睡眠が足りている、疲れを感じていると回答。睡眠6時間以上は9割、8時間以上は3割弱と回答。	B	<今後の課題> ・心身の健康を考えて食事や睡眠等生活習慣を整えていく力の向上 ・健康診断後の治療率を上げる。 <改善策> ・食事について栄養士と連携し、食への興味関心を高めるように工夫する。 ・睡眠についての資料や掲示物を工夫し、市民科や生徒委員会活動等に取り入れていく。 ・歯科健診を有効活用し、歯科校医と連携し個別指導に力を入れる。
	定期健康診断後の歯科・耳鼻科・眼科等治療率が向上したか、歯磨き・うがい・手洗いの定着、食事や睡眠・ストレスへの対処等基本的な生活習慣が身についている。	定期健康診断の結果、むし歯罹患率が昨年度の2割から今年度は1割に下がった。歯科健診時に個別指導と資料の掲示をし歯の健康への意識を高めるよう工夫を行った。歯科指導を11月に実施し歯磨きの重要性を各学級で指導を行った。ストレスマネジメントを9年生で実施し、スキルを身に付けさせた。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○日常的に未然防止、早期発見、早期対応のため、学校と教育委員会及び関係機関が連携して取り組む。 ①家庭、地域、関係機関との連携を強化し、社会総がかりでいじめ根絶に取り組む。 ②生徒の自治的、自発的活動を充実させ、自他の人権を大切にできる生徒を育成する。 ③いじめを相談しやすい信頼関係と小さなサインを見逃さない指導体制を築く。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	9割以上の生徒が「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」という意識を持ち、いじめを許さない学校風土を築く。	アンケート結果は、7年98%、8年99%、9年97%全体98%と目標を達成できた。	A	<今後の課題>生徒主体の活動によって、いじめを許さない学校風土を築く。 <改善策>引き続き、いじめ防止授業や様々な活動を通して、人権尊重の意識を高める。同時に、生徒会本部や学年協議会を中心とした取組みを支援する。
	生徒の主体的な取り組み(学級目標、いじめ根絶バッジ、人権標語、ポスターづくりなど)を重視しながら、いじめを学校全体の問題として正しい世論を形成する。	誰もが安心・安全に学校生活が送れるよう、学級目標づくりや土曜授業のいじめ根絶バッジ着用、人権標語の制作などの取組を通じた啓発活動が定着している。また、いじめ防止授業や生徒の情報交換を密に行うことにより、未然防止、早期対応を図った。	A	
②	年3回実施する生活アンケート(5月、10月、1月)で、いじめやいじめにつながる行為の発生が減少し、学校生活が楽しいと答える生徒を100%に近づける。	アンケート結果は、7年96%、8年100%、9年97% 全体98%と目標達成まであと少しとなった。	A	<今後の課題>各種アンケートの結果を分析して指導に生かす。 <改善策>生徒とのコミュニケーションをさらに充実させ、実態把握に努め、各種アンケートの結果も合わせて対応する。また、各種アンケートから得られた情報を教員が共有し、組織的に対応することで、いじめの未然防止、早期対応につなげる。
	トラブルや悩みの解決につながるよう教育相談の機会を充実させる。(家庭訪問、三者面談、SC面談、校長面談など)いじめ対策委員会(毎週)で情報交換し、早期対応につなげる。	家庭訪問アンケート、三者面談、SC面談(7年生)、毎日の生活記録、各種アンケート(デイケン、いじめDアンケート、NiCoLi、学校風土D調査)の結果を踏まえて、生徒の実態把握に努めた。また、生徒の情報交換を密に行い、トラブルの未然防止、早期対応を図った。	A	
③	9割以上の生徒が「差別や偏見を許さず、互いに人権を認めあいながら関わる」という人権尊重意識を持つことができる。	アンケート結果は、7年99%、8年96%、9年100%全体98%で目標を達成できた。	A	<今後の課題> 人権に対する授業を系統立てて実施できるようにする。 <改善策> 人権教育や多様性の授業を一貫プランに取り入れ、時間をかけて始動できる体制を作る。
	人権作文づくりと発表会、お肉の情報館見学、社会科や市民科学習を中心とした人権課題の学習などを通して理解を深め、人権意識を高める。	今年度は、7年生が人権作文を作り、市民科授業地区公開講座で発表した。さらに、お肉の情報館から講師を招いて講話を実施した。また、デフサッカーやブラインドサッカーを実施し、多様性理解を深めた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 地域行事や学校行事に関すること

重点目標		○コミュニティ・スクールとして地域と一体となった教育活動を充実させ、地域への誇りと愛着を育てる。 ①CSを中心とする浜川祭りを始め、地域活動(町会との合同地域清掃、連合運動会、地区委員会主催行事など)への積極的参加を呼びかけ、体験を通して学ばせる。 ②運動会、学習発表会、校外学習において生徒の実行委員会を中心にした主体的な取り組みを充実させる。また、生徒会活動を活発化させ、自らの生活を自らの手で向上させようとする自治意識を高める		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	地域と連携した教育活動を充実させ、自己肯定感を高め、地域への誇りや愛着を育成する。(アンケートで8割以上の肯定的な評価が得られている。)	アンケート結果は、7年80%、8年75%、9年76%全体77%目標達成まであと少しであった。	B	<今後の課題> CSと連携しながら地域人材を活用した授業を実施しているが、生徒の地域への帰属意識につながっていない。 <改善策> 職場体験や龍馬フィールドワーク、ドリームジョブなどを一貫プランに取り入れ、地域を知り、貢献することに力を入れる。
	地域ボランティア、浜川まつり、龍馬フィールドワーク、職場体験などの地域との連携による教育活動を活発化させる。	今年度は、CSと連携をして、浜川まつりをはじめとして、職場体験、龍馬フィールドワーク、ドリームジョブ、赤ちゃんふれあい体験などの地域の人材を生かした活動を行った。	A	
②	学校行事や生徒会、部活動などの教育活動を通じて達成感、充実感、帰属意識が高められたか。(アンケートで8割以上の肯定的評価が得られている。)	アンケート結果は、7年87%、8年96%、9年90%全体91%で目標は達成できた。	A	<今後の課題>行事のような特別な活動だけでなく、普段の学校生活の中で生徒が達成感等を高められるような取組みを考え実施する。 <改善策>生徒が協働的に取り組む活動や生徒の自己決定の場面を増やすことで達成感や充実感、帰属意識を高める。
	生徒が主体的に取り組めるよう様々な活躍の場が用意され、学校行事、生徒会活動、部活動などに生き生きと取り組んでいる。	昨年度に比べて行事が各学期に比較的均等に配置され、生徒が生き生きと取り組む姿が見られた。また運動会や学習成果発表会、各学年の行事など、様々な活動において、生徒実行委員会を組織し、生徒が行事の成功のため主体的に考え行動する場面を設定した。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成